

大人は子どもたちのサポーター（エストレラから学ぶ編）

どんぐりの里で定期的開催しているサッカー教室ですが、始めてからもうすぐ2年が経とうとしています。写真やホームページでその様子を見ていただければわかるように、のびのびと元気に楽しく活動しています。



初めに、この場を借りて言うのも何か変ですが、エストレラ津田サッカークラブ代表の樽本先生には快く引き受けていただいて感謝しています。機関紙なので先生と記載していますが、普段は子供たち同様に「樽さん」と呼んでと言われていました。ものすごい方なのにすごく熱く情熱的でありながら、親しみやすく大人も子供も惹きつけられる、とっても不思議な雰囲気をお持ちです。

そんなたるさんのエストレラのホームページには、人（子どもたち）と一緒に活動していくためのヒントがたくさんあります。その中から1つ紹介したいと思います。

それは、エストレラ津田サッカークラブ（以下、エストレラ津田 SC）のホームページから、サポーターの部屋というバナーをクリックすると出てくる「エストレラ津田 SC サポーターズ心得」です。※以下引用

- ・ 答えを教える（ティーチング）→ 子供の思考は止まる
 - ・ ヒントを与える（コーチング）→ 答えを導き出そうと子供の思考は止まらない
- 津田 SC のスタッフは常にコーチングを意識して子供達と接しています。
スタッフ同様、ご父兄の皆様のアプローチの仕方では子供の可能性は無限に広がります。
サポーターズ心得えをお読みになり、子供達の最高のサポーターとなれるよう

寛大な心で見守りましょう

※引用元



こんなサポーターに見守られながら、生き生きとスポーツと向き合えるなんて素晴らしいと思います。まさに子どもを取り巻く大人たちの協力意識の表れでしょう。我々職員やお父さんお母さんも、なんでも大人がしてしまうのではなく、子どもたちが主体となってチャレンジしていけるように1つのサポーターチームなのです。

私は紹介した文を見て、昨今の児童に係る福祉や教育の在り方に対して感じるものがありました。障がい福祉をピックアップすると、制度ネグレクトという悲しい言葉がどこからともなく生まれてきました。今一度それぞれ大人が見つめなおさなければならないのではないのでしょうか。施設や職員頼りになってしまっていないか、家庭内の問題として見て見ぬふりしてしまっていないか。〇〇ファーストの〇〇にはどんな言葉が当てはまりますか？こども？保護者？施設？職員？個人？仕事？さて、皆さんはこの文章を見て何を感じましたか？

最後になりましたが、エストレラ津田 SC のホームページには「樽さんの部屋」というコーナーがあります。そこでは樽さんが熱〜く熱〜く様々なことを語っていて、樽さんの人柄が感じられますよ。ぜひ覗いてみてください。そしてまだサッカー教室に参加していない方はぜひ一度ご家族で見学に来てみてくださいね！